

## 京都大学の入試攻略法（他大学にも応用してください）

先日、予備校の先生による京都大学入試攻略の講演を聞いてきたので、記憶が鮮明なうちに整理して紹介してみます。京都大学と聞いて、尻込みする人もいるかもしれませんが、どの大学を受験するにしても、ある程度の大学であれば、同じような考え方が必要になってくると思うので、参考にしてみてください。

まず、京都大学の入試はほとんどが前期日程になります。特色入試もありますが、なかなか条件も厳しく、定員の1割程度ですので、ここではあまり触れません。もちろん、学びたいことがあり、何かしら高校時代に積み上げているものがあり、大学での「学びの設計書」を書いて、面接で語れるのであれば、チャレンジするのもよいでしょう。特色入試を考える人は、担任・進路課の先生に相談してみてください。

### <全体>

さて、どの大学のホームページを見ても、ほとんどの大学で「アドミッションポリシー」（「入学者受け入れの方針」）が示されています。京都大学の「入学者受け入れの方針」は以下のようになっています。

京都大学が入学を希望する者に求めるものは、以下に掲げる基礎的な学力です。

- 1.高等学校の教育課程の教科・科目の修得により培われる分析力と俯瞰力
- 2.高等学校の教育課程の教科・科目で修得した内容を活用する力
- 3.外国語運用能力を含むコミュニケーションに関する力

このような基礎的な学力があってはじめて、入学者は、京都大学が理念として掲げる「自学自習」の教育を通じ、自らの自由な発想を生かしたより高度な学びへ進むことが可能となります。

なるほど、言っていることは明確ですね。「分析力」「俯瞰力」「活用力」「コミュニケーション力」を持っている受験生に入学してほしいですよ、ということです。

では、京都大学は入試でその力をどうやって見ているのでしょうか。京都大学の場合、点数配分は**共通テスト3割・二次試験が7割**ですので、やはり**二次試験で受験生の学力を見る**ということが前提になります。

以下、主に英語をメインに、二次試験がどんな感じなのか紹介します。

### <英語>

まず、英語です。印象的だったのが、大問3の**和文英訳**です。日本語特有の表現をどう英語で表現するか、ということが要求されるということです。例題として2021年の問題が紹介されました。以下です。

[Ⅲ] 次の文章を英訳しなさい。

言うまでもなく、転ばぬ先の杖は大切である。しかし、たまには結果をあれこれ心配する前に一歩踏み出す勇気が必要だ。痛い目を見るかもしれないが、失敗を重ねることで人としての円熟味が増すこともあるだろう。あきらめずに何度も立ち上がった経験が、とんでもない困難に直面した時に、それを乗り越える大きな武器となるにちがいない。

どうですか？ほとんどの人にとって、日本語で読む分には理解できる内容だと思います。しかし、これを英訳しなさい、と言われると、途方に暮れる人も多いと思います。「言うまでもなく、転ばぬ先の杖は大切である」だけでも大変そうです。もちろん、調べれば「転ばぬ先の杖」に該当する英語のことわざは出てきますが、大学としては、英語のことわざを知っている量を知りたいわけではありません。一旦、他の言い方にしてから英語にしてみるという作業をした方が効率がよいでしょう。この問題は、「**日本語の（ことわざの）意味を俯瞰して理解し、内容を分析したうえで、自分の知っている英語を活用して、それを文章にしてコミュニケーションできる**」ことを要求しているわけですね。ほら、アドミッションポリシーに完全に合致していますね。

過去問にトライして、例えばこの問題に全然歯が立たなかったため、あわてて英語のことわざを覚えようとするのは、まったく無意味であることはわかってもらえますね。それよりは、例えば「途方に暮れる人も多いと思います」という文章を一旦、別の言い方にして、英語にしたときにどうなるかな、と考へたりするように普段から言語感覚を意識的に養うことが大事ではないでしょうか。

その他英語に関する情報…**合格目標 70%**、語彙力はハイレベル。長文読解は哲学・宗教分野と、生物・天文分野のテーマが多め。英作文は政治、教育のテーマが多いとのことでした。

### <数学>

過去10年間の傾向を見ると、(以下、( )内は出題回数。理系の微積は出題されなかった年がない)

文系：確率(8)・微積(9)・ベクトル(6)・整数(7)

理系：確率(9)・微積(10)・図形(6)・整数(9)

と、ある程度傾向が明確にあるそうです。出題はシンプルで、あまり誘導はなく、論証に重きがおかれ、計算式の羅列だけではほとんど加点されません。論証の過程が重視される、ということです。

**合格目標は60%**くらいだそうです。

### <国語>

国語の問題で印象的だったのが、国語の大問の問いが

- |  |
|--|
| 問1 傍線部(1)はどのようなことか、説明せよ。                   |
| 問2 傍線部(2)のように筆者が言うのはなぜか。説明せよ。              |
| 問3 傍線部(3)のように筆者が言うのはなぜか、説明せよ。              |
| 問4 傍線部(4)について、筆者がここで言う「教養」とはどのようなものか、説明せよ。 |
| 問5 傍線部(5)とはどのようなことか、本文全体を踏まえて説明せよ。         |

と、**全部「説明せよ」という問題があった**、ということです。これも、「分析・俯瞰」「活用」「コミュニケーション」を重視していると考えれば、納得できる出題だと思います。採点は大変そうだと思いますが。

**国語は採点がかかり厳しく、合格目標は50%**くらいになります。

### <理科と地歴>

これらの科目については、詳細はあげませんが、おおよそ**70%が合格目標**だそうです。

## 過去問について

英語が一番わかりやすかったですが、やはり難関大学を志望するのであれば、アドミッションポリシーを意識しながら過去問を分析することが大事、ということがわかってもらえるでしょうか？もちろん、過去問と全く同じ問題が出題されるわけではありません。ですが、それぞれの大学が、受験生に対して何を求めているのか、ということを知る上ではとても重要です。

また、難関大学の問題の解答は一つではありません。ですので、赤本などにある模範解答だけが正解ではありません。もっと言うと、赤本・青本の模範解答が、大学の想定している解答と一致しているとは限りません。ですので、過去問にチャレンジした場合は、先生などに添削してもらうのが一番よいです。

過去問への向き合い方として、今回の講演で言われたことは以下の2つでした。

- |   |
|---|
| ・入試問題(過去問)は、単に知識を問うものではなく、「 <b>出題者からの思考力テスト</b> 」だととらえる。                          |
| ・問題を解く目的は、単に答えを出すことではなく、「 <b>出題者の意図を読み解くこと</b> 」「この問題はなぜこのテーマが選ばれたのか？」という問いを立てること |

今回は京都大学の入試攻略法でしたが、冒頭にも書いたように、大学ごとに来て欲しい学生像があり、そのために入試問題が作られています。**きちんとリサーチして、対策していくことも、受験勉強の醍醐味**です。自分に必要な力が必要かを意識しながら、ゴールを見据えた学習を進めていきましょう。